

# 商工中金の取組み

(これまでの検討会でご指摘のあったもの)

平成29年12月

# ミドルリスク層に対する取組

- 商工中金の要注意先比率は30%前後で、リーマンショック時等にはプロパー貸付も含めて上昇。
- 要注意先に対する訪問頻度は取引先数の分布相応。

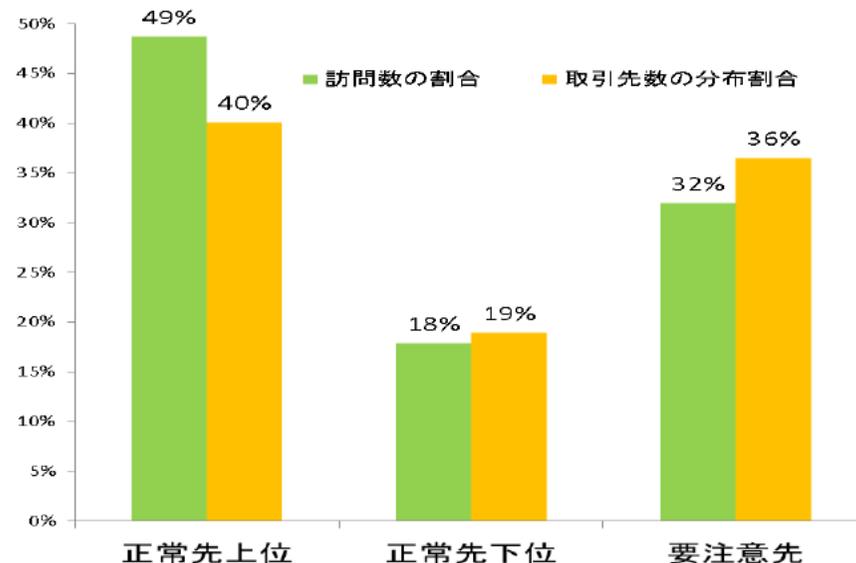
## ● 要注意先比率の推移(要注意先残高/総融資残高)

	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3	27/3	28/3	29/3
商工中金	29.2%	37.8%	36.6%	35.3%	33.4%	31.6%	30.1%	30.2%	28.6%
プロパー等	29.0%	36.7%	34.7%	32.8%	31.3%	28.2%	25.5%	24.9%	23.6%
危機対応	32.0%	41.1%	40.3%	39.0%	36.4%	36.4%	37.7%	40.3%	41.8%
地銀5行平均※	14.1%	15.5%	15.1%	14.3%	12.8%	12.3%	11.3%	10.4%	9.3%

※地銀5行: 横浜銀行、千葉銀行、静岡銀行、福岡銀行、常陽銀行。要注意先残高/貸出残高。

## ● 債務者区分別訪問状況(28年度)

→ 要注意先に対する訪問頻度も相応



## ● 破綻率の状況(24~28年度)

	危機対応利用先	プロパーのみ先
A 破綻先転落数(5年間累計)	911	664
B 融資先数(5年間累計)	240,172	174,028
A/B 破綻率(5年平均)	0.38%	0.38%

## ● 取組事例

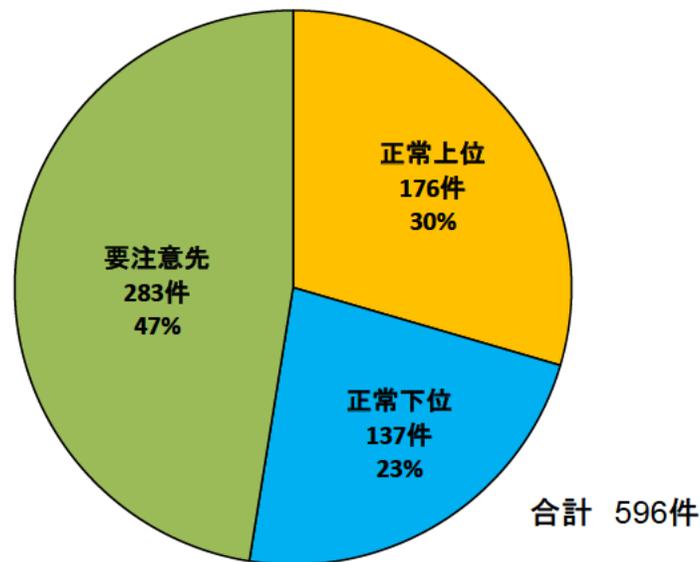
### 返済条件緩和先に対して、全行協調での無保証対応を実現

- 地元最大規模のショッピングセンターを運営するA社の代表者は、高齢のための退任を希望していたが、次の経営者選びにあたって個人保証がネックとなっていた。また、取引金融機関において返済条件を緩和している状態だったが、業況の回復により手元資金が増えてきたことから、元の返済条件への変更を希望していた。
- これを受けて商工中金は、当社のニーズに応えるべく、「経営者保証に関するガイドライン」に即した無保証対応と返済条件の正常化に向けたリファイナンスの検討を行い、商工中金が主幹事となって、全金融機関の協調によるリファイナンスを無保証で実現するシンジケートローンの組成を実現。

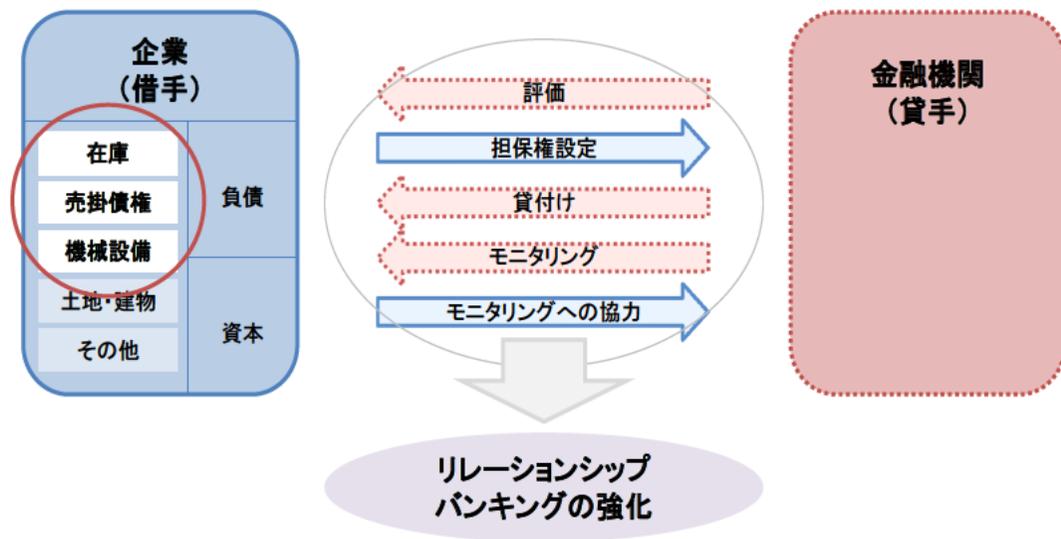
# 事業性評価の取組

- 在庫が販売されて売掛金となり、売掛金が回収されて流動預金となる「事業のライフサイクル」に着目し、在庫・売掛金・流動預金を一体として担保として、一定の融資枠を設定するABL(アセットベースドレンディング)に取り組んでいる。

## ● ABL(商流一体型)の設定状況(26-28年度)



## ● ABLのスキーム図



## ● 取組事例

### 地域金融機関と連携しシンジケート型ABLを組成

- C社は、自動車部品やベアリング用部品など金属製品の製造業者。エンドユーザーである自動車メーカーの海外生産の増加により、自動車部品メーカーからの受注が増加し、運転資金の調達を必要としていた。
- 商工中金は、地域金融機関と業務協力文書を締結以降、幅広い分野で情報交換を行い関係を強化していたところ、C社が両金融機関の取引先であったこともあり、シンジケート型ABLを組成し協調で支援を行うこととなった。
- 当該地域金融機関としては初となるABLの取組みであったことから、商工中金は同行に対し、情報交換やノウハウ提供等を行いながら、同行の取組みを後押し。

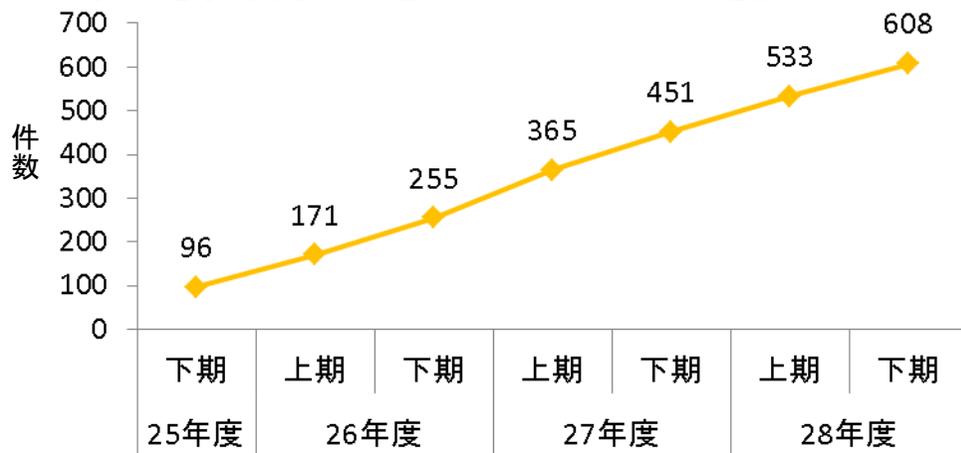
# 再生支援の取組

■ 事業再生に取り組む事業者に対し、コンサルティング機能を最大限に発揮し、経営改善計画の策定支援からその達成、成長に必要な資金調達の円滑化のためのリファイナンスまで、一貫した総合的なサポートを行っている。

## ● 再生支援協議会計画策定支援完了件数(全国)の推移

	26年度	27年度	28年度
再生支援協議会計画 策定支援完了	2,484件	1,319件	1,047件
商工中金関与	431件	311件	264件

## ● 再生支援先に対するリファイナンス実績 (成長に必要な資金調達の円滑化のための借換え等)



※25年10月に社内で創設したリファイナンス制度の累計取組実績

## ● 取組事例

### 地域金融機関との連携により地域中核企業の事業再生をバックアップ

- 大手自動車メーカー向けに金属プレス部品を供給するB社は、地域経済を支える中核企業。過去に大型の設備投資を実施したものの、受注の急激な減少や固定費の高止まりにより、投資に見合った収益を確保できず、事業再生に向けた経営改善を進めていた。
- 商工中金は、納入先の自動車メーカーと連携しながら、B社に再生計画の策定を助言し、再生支援協議会とも連携してDDS(デットデットスワップ)を含む再生スキームを構築。
- また、商工中金は、公的金融機関としての中立性を活かしたコーディネーター機能を発揮し、DDSの実績のない地元信用金庫や信用保証協会に対し情報の提供と助言を行い、合意形成に向けた調整を行うとともに、短期資金で資金繰り支援するなど、B社の事業再生をバックアップ。

# 国内外のネットワークによる支援

- 経営者高齢化や後継者不在等の取引先に対して、各種情報提供や税理士等外部機関紹介のほか、事業承継支援貸付やM&A等で総合的にサポートしている。
- その他、国内外のネットワークを活用したビジネスマッチング、海外展開支援にも取り組んでいる。

## ● 事業承継支援の推移

	26年度	27年度	28年度
相談件数	498件	590件	737件
事業承継支援貸付	69件	227件	256件

## ● M&A仲介件数推移

	26年度	27年度	28年度
M&A仲介件数	17件	12件	15件

## ● 取組事例

### 地域金融機関とM&Aで連携し地方ホテルの事業承継ニーズに対応

- 後継者難で事業譲渡を検討していたホテルについて、M&Aに関する包括守秘義務契約締結先に基づき地域金融機関から情報入手し、商工中金は、全国ネットワークを活用し首都圏のホテルチェーンとの事業譲渡を実現。

### ビジネスマッチングによりお取引先の事業拡大をサポート

- 産業機械製造業向けに金属加工・板金・溶接組立を行うD社からの受注先開拓ニーズを受け、当金庫取引先(他地域)である医療用機器メーカーとの商談の場を提供。結果、試作品受注につながり、量産化に向けた商談が継続している。

### 米国での新規投資に対して海外拠点を活用してサポート

- E社は、世界的に需要が急拡大している予防医療分野の医薬品原料等を製造している。商工中金は、同社の米国現地法人設立、新工場建設計画に必要な資金をニューヨーク支店からUSD建てで融資した。

## ● 海外現地法人貸出及びスタンドバイLC※の残高推移

	26年度	27年度	28年度
海外現地法人貸出	720億円	734億円	742億円
スタンドバイLC残高	356億円	362億円	350億円

※スタンドバイLCとは、取引先の海外子会社等が現地の金融機関等から借入する際に、信用状(LC)を発行し、当該債務を補償するもの。

# 中小企業が組合等により連携した取組に対する課題解決型支援

- 中小企業の生産性向上や販路拡大等のニーズに対して、商工「組合」中央金庫として中小企業組合の機能を活用するなどして、共同生産化や共同IT化等により、そのニーズを実現。

## ● 取組事例

### 生産性向上を図る下請中小企業を県・中央会と連携しサポート

- 大手重工メーカーの下請中小企業10社は、航空機部品の協業化による一貫生産を通じて、生産性向上を図り、競争力確保やサプライチェーンの高度化を目指すべく、組合を設立し、共同工場新設を計画していた。
- 商工中金は、航空分野を産業振興の柱に掲げる県や中小企業団体中央会と連携しながら、組合の設立等を支援。資金調達に当たっては、商工中金が窓口となって地域金融機関3行を招聘し、協調融資体制を構築した。

### ITによる域外需要開拓を図る組合・組合員を中央会等と連携しサポート

- 自動車学校で構成されるG組合は、域外需要開拓のため、共同事業として、WEBマーケティングによる合宿教習生募集・組合員への斡旋強化を企図していた。
- 商工中金は、中央会と共に助言等を行うとともに、各種施策情報等を提供、組合員(自動車学校)に対しても、合宿教習生の受入強化のための寮整備等の施設整備資金について、地域金融機関と連携しシンジケートローンを組成し支援した。

### 地域資源の海外需要開拓を地域金融機関と連携してサポート

- H組合は、織物業者がちぢみの加工を連携して行うために設立された。「べとつかず涼しい」という素材の特性を踏まえ、高温多湿のアジアへ海外販売の展開を検討することになった。
- 商工中金は、市や地域金融機関と連携し、事業計画の策定支援や資金の供給を行い、海外展開をサポート。